

川南町における強い地域づくりと産業振興に関する提言
～未来ビジョン2025～

令和7年9月4日
川南町経済推進会議

はじめに

本提言書は、川南町がこれからの時代に対応し、持続可能で魅力ある町として発展するために必要な重点施策を、川南町経済推進会議の意見としてまとめたものです。

宮崎町長の就任を契機に、町全体のブランド刷新と、農林水産業、商工業、観光、外国人を含む人財活用など、多角的な分野における包括的な強い地域づくりと産業振興策を以下に提言します。

1 町のブランド刷新とデザイン戦略（キャッチコピーとロゴの刷新）

新しい町の顔となるビジュアルアイデンティティを構築し、町民が誇りを感じられる町づくりを推進すること。そのためにも、専門デザイナーを招聘し、観光・特産品・広報など全体に統一感のあるデザイン展開を行うこと。

2 第1次産業を核とした地域経済の再構築

(1) 新規を含む農林水産業者の育成と支援

新規就業者、認定農業者、事業承継者へのサポート体制や研修の充実を図ること。

長期的視点での政策立案と10年、20年先を見据えた支援制度の整備を行うこと。

スマート農業・水産業を実現するための機械導入や、省力化技術による労働負担軽減に寄与する事業に取り組むこと。

(2) 地域主導の農業労働支援制度の構築とインフラ整備等

「農業の何でも屋」的な町直営労働支援制度の構築や「特定地域づくり事業協同組合」の推進を図るとともに、パイプライン等水利インフラの整備を町主導で推進すること。

各種補助事業の継続的な構築・運用や、農業を含む多様な産業の技術指導の体制強化を通して所得アップを図ること。

(3) 第1次産業と教育の連携

オーガニック教育等の導入を検討することに加え、子どもたちが自然と一次産業に親しむ環境を構築すること。

(4) 第6次産業の戦略的支援を行うこと

観光農園化の推進、6次産業化支援の強化、食のサブスクリプション化とブランド化の統一に向けた可能性の検証等を行うこと。

3 観光・商業・イベントによる魅力の創出

(1) 大型企業等の誘致・整備

地域資源を生かした「食のテーマパーク」などを整備・運営する民間企業を誘致し、川南町に訪れるきっかけを増やす仕掛け（食の楽しみ、農業体験、温泉・サウナ・足湯等）を整えること。

(2) 観光地×商業施設の一体整備

町中心部に広い駐車場を設置し、観光地と商業施設を歩いて回れるような基盤整備を行うこと。観光地的な要素を有する総合運動公園や、トロントロン商店街の近くにお土産店や飲食店を配置し、観光客が訪れやすい環境を整備すること。

(3) 季節イベントと地域資源の活用

春：収穫マルシェ、夏：浜辺の夜市、秋：収穫祭・神楽、冬：こたつ鍋フェス・クリスマスマーケットなど、四季に応じた催しの開催や地域の個性に加え歴史を活用した地域経済に波及する仕組みを意識したイベント運営体制の構築を行うこと。

4 移動手段の利便性向上

町民の移動手段が不足している現状を踏まえ、アプリや電話で簡単に利用できるライドシェアサービスの導入を検討し取り入れることを通して、昼間は高齢者、夜間はタクシーがない時間帯の移動手段の確保と同時に、雇用の創出にもつながる新たな取組に昇華させること。

5 人材の流入促進

「川南町に移住+就業」という切り口でスタートした町独自の制度である「トレーニングハウス」は、対外的に注目を集め一定の評価を得ているが、その対象品目や他の業種（漁業等）に置き換えて事業を再構築するなど、ブラッシュアップ等に適宜務めながら、多様な人材の流入促進に継続して取り組むこと。

6 国内及び外国人材との連携と国際的なPR

(1) 立命館アジア太平洋大学（APU）との連携強化

APUという既存の国際的なリソースを活用し、外国人材の誘致と川南産品の海外展開を通して、新しい地域経済活性化と地域ブランド化を構築すること。そのためにも同大学との連携づくり（連携協定等）を整えること。

在校生や卒業生を川南町に呼び、インターンシップや地方創生フェローシップを通じて地域活動に参加させる仕組みを構築すること。また、外国人卒業生を町の「ブランドアンバサダー」として任命し、母国でのPR活動等に寄与する仕組みを構築すること。

(2) 農業サマーキャンプ・観光民泊等の展開

川南町とAPUで次世代農業（漁業）に関するキャンプを開催し、地域と外国人材の交流を促進すること。外国人学生や卒業生のネットワークを活用し、農業体験や民泊などを活性化させること。

(3) エドゥケーションや民泊の推進

都市部の高校・大学と連携した「地域を学ぶ」体験プログラムを構築すること。

民泊受入家庭の発掘・研修制度等の整備を行うこと。

(4) 多言語・国際対応

観光拠点等において、多言語（英語、中国語、韓国語など）パンフレット等の作成や翻訳アプリ・音声ガイドの配備を行うこと。

7 伊倉浜自然公園エリアの再整備

- (1) 川南駅を含む伊倉浜自然公園と周辺地域の利活用計画の策定（ゾーニング、景観整備）を行うこと。
- (2) グランピング施設、サーフィン体験、ヨガ、SUP、絶景温泉などを整備する民間企業誘致支援を行うこと。
- (3) ベンチ、歩道、シャワー、更衣室などの公共整備を行うこと。
- (4) 地元事業者との連携による小規模な複合施設計画も検討すること。
- (5) SNS映え、フォトスポットの整備も含めた空間づくりを行うこと。

8 町役場の企画力強化と町民参加の仕組みづくり

- (1) 企画特化型の部署の創設
各課横断の情報とアイデアを集約し、町長直轄で設置すること。加えて、次代に即した部署づくり（機構改革）を行うこと。
役場職員が日常業務から離れ、中長期的視野のまちづくりを推進できるような環境づくりに取り組むこと。
- (2) オンラインの目安箱・対話の場の整備
「町民の声」を直接吸い上げるオンライン相談窓口の開設を行うこと。
行政と町民、若者、企業等、多様な世代等が語り合う座談会や交流の場を、定期開催すること。

おわりに

川南町がこれから10年、20年先を見据え、豊かな自然と基幹産業を軸にした町づくりを進めるには、持続可能な産業構造、人材戦略、観光ビジョン、町民参加の仕組み等が不可欠です。

新町長のリーダーシップのもと、行政・地域・外部人材等が一体となって本町の未来を創るために、本提言を御活用いただきたく、ここに提出いたします。